

環境活動レポート

(2014年度版)

発行日 2015年5月30日

株式会社 山拾村上商店

株式会社 山拾村上商店

環境方針

<基本理念>

株式会社 山拾 村上商店本社工場は、釧路湿原の豊かな 自然を守りつつ、総合リサイクル業としての社会的役割を認識し、事業活動を通じて環境負荷の少ないリサイクルに正面から取り組み、循環型社会の一翼を担える企業として更に成長するため、環境保全活動に関する基本方針を以下に定める。

<環境保全への行動指針>

1. 行動指針を実現するために、下記の内容を取り組みます。

- ①電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ②収集運搬車・重機の燃料消費に伴う二酸化炭素の削減
- ③取扱品目のリサイクル推進
- ④廃棄物の削減の推進
- ⑤水資源の節水
- ⑥グリーン購入の推進

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境方針は従業員に周知する。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

制定日：2011年 8月 1日

改定日：2013年 4月 1日

株式会社 山拾村上商店

代表取締役

村上 祐二

□組織の概要及び対象範囲

(1) 事業所名及び代表者名

名 称 株式会社 山拾村上商店
代 表 者 代表取締役 村上 祐二
創立年月日 昭和26年6月1日
設立年月日 昭和35年4月1日
資 本 金 10,000,000 円

(2) 所在地

本社工場：釧路郡釧路町国誉2丁目5番地
支 店：鳥取りサイクルセンター
釧路市鳥取南5丁目11番54号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 東海林 智文
本 社 TEL：0154-36-1203 FAX：0154-36-1204
鳥取りサイクルセンター TEL：0154-52-1203 FAX：0154-52-1218
E-mail:yamajyu-s@ymail.plala.or.jp

(4) 事業内容（認証・登録の範囲）

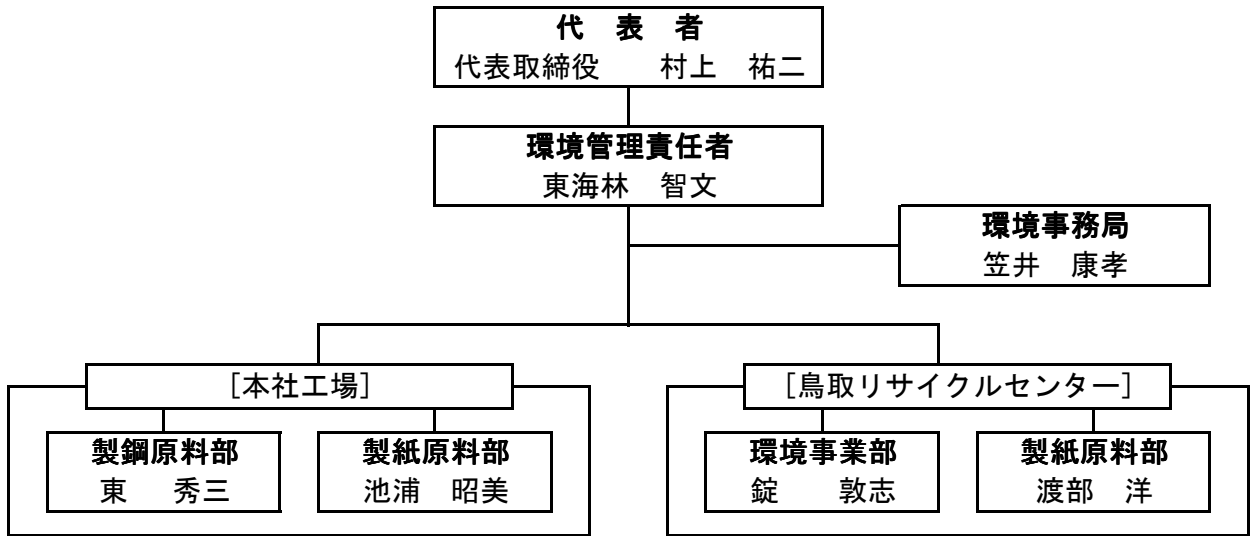
一般廃棄物収集運搬、産業廃棄物収集運搬及び中間処理、金属スクラップ、古紙、プラスチック原料の加工・処理・販売、解体工事

(5) 事業の規模

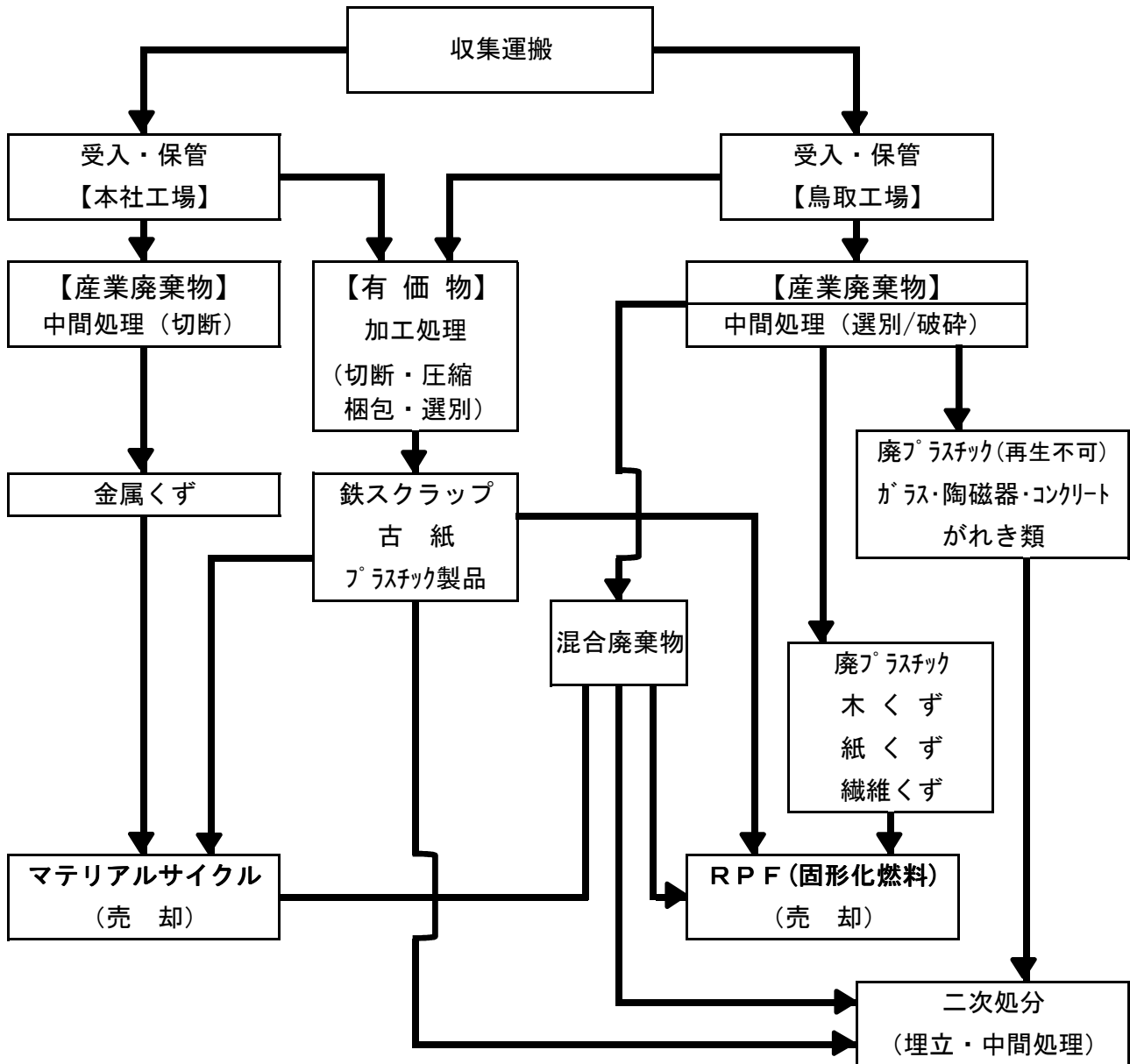
活動規模		単位	2012年	2013年	2014年
売上高	生産量	t	17,556	20,739	18,268
	解体工事	件	13	11	26
	総売上高	百万円	478	619	563
従業員		人	26	28	28
敷地面積		m ²	15,398.85	15,398.85	15,398.85
床面積	本社工場	m ²	1,752.95	1,752.95	1,752.95
	鳥取工場	m ²	2,648.59	2,648.59	2,648.59

(6) 事業年度 4月～3月

(7) 組織図



(8) 作業工程図



(9) 事業に係る許可の内容

許可の内容	許可年月日	許可番号	許可の内容
	許可期限		
産業廃棄物収集運搬業	平成25年 7月27日	第00110054879号	燃, 汚, 油, 酸, アルカリ, 廃プラ, 紙, 木, 繊維, 残渣, ゴム, 金属, ガラス, コン, 陶磁器, がれき, ばいじん
	平成30年 7月26日		
産業廃棄物処分業	平成25年 7月27日	第00120054879号	本社 切断(金属, 廃プラ)
	平成30年 7月26日		鳥取 <ul style="list-style-type: none"> ・ 破碎 (廃プラ, 紙, 木, 繊維, 金属, ガラス, コンクリート, 陶磁器, 廃油) ・ 減容固化 (廃プラ, 紙, 木, 繊維, , 廃油) ・ 選別 (廃プラ, 紙, 木, 繊維, 金属, ガラス, コンクリート, 陶磁器, 廃油, がれき, 汚泥) ・ 破碎・圧縮 (廃プラ)
特別産業廃棄物収集運搬業	平成26年 4月28日	第0150054879号	廃油, 廃酸, 廃アルカリ
	平成31年 4月27日		
第一種フロン類回収業者登録	平成24年 9月27日	第0110000319号	第一種特定製品
	平成29年 9月26日		
一般廃棄物処理業(釧路市)	平成26年 3月 1日	釧路市許可第17号	一般廃棄物収集運搬
	平成28年 2月28日		
一般廃棄物処理業(釧路町)	平成26年 4月 1日	釧路町許可第16号	一般廃棄物収集運搬
	平成28年 3月31日		
引取業者登録通知書	平成24年10月 2日	第20011000472号	使用済自動車
	平成29年10月 1日		
フロン類回収業者登録	平成24年10月 2日	第20012000472号	使用済自動車
	平成29年10月 1日		
解体業	平成26年 7月11日	第20013000472号	使用済自動車
	平成31年 6月30日		
破碎業	平成26年 7月11日	第20014000472号	使用済自動車
	平成31年 6月30日		
建設業	平成24年 1月22日	(般-23)釧路第02604号	とび・土工工事業
	平成29年 1月21日		
金属くず商	平成20年 6月 9日	第933号	
	—		
古物商	平成 8年 4月 2日	釧(古)第77号	
	—		

(10) 施設及び処理の状況

用途	車種・その他	台数
収集運搬車	1 tトラック	1 台
	2 tトラック	2 台
	4 tグラップル	2 台
	8 tユニック	1 台
	8 tダンプ	1 台
	10 tグラップル	2 台
	ダンプパッカー	2 台
	プレスパッカー	2 台
中間処理設備	一軸破碎機	1 台
	RPF製造設備	1 台
	木材破碎機	1 台

(11) 施設及び処理の状況

処理内容	廃棄物の種類	単位	2014年度
一般廃棄物 収集運搬	一般廃棄物	kg	78,590
産業廃棄物 収集運搬	廃油	kg	16,660
	廃酸	kg	2,910
	廃アルカリ	kg	950
	汚泥	kg	890
	混合廃棄物	kg	389,811
	廃プラスチック類	kg	240,346
	紙くず	kg	2,890
	木くず	kg	384,070
	繊維くず	kg	4,380
	金属くず	kg	107,416
	ガラス・陶磁器くず	kg	50,401
	がれき類	kg	6,415,050
産業廃棄物 処分	廃油	kg	16,050
	混合廃棄物	kg	907,784
	廃プラスチック類	kg	379,426
	紙くず	kg	28,630
	木くず	kg	843,504
	繊維くず	kg	16,790
	金属くず	kg	264,439
	ガラス・陶磁器くず	kg	92,841
がれき類	kg	209,610	

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2012年	2013年	2014年
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	536,547.849	554,242.280	565,847.546
購入電力	kwh/年	241,329	271,948	250,460
ガソリン	L/年	6,578	6,120	5,041
軽油	L/年	116,144	113,784	122,643
灯油	L/年	5,451	6,201	5,787
A重油	L/年	37,060	40,794	38,562
都市ガス	m ³ /年 (L/年)	185(383)	191(395)	187(387)
一般廃棄物量排出量	t/年	2.41	2.76	2.40
産業廃棄物排出量	t/年	418.60	123.67	33.65
総排水量	m ³ /年	289	369	346

(注) 電力の二酸化炭素排出係数は0.678t-co₂/KWHを使用している。

□環境目標及びその実績

項目		年 度		2012年度	2014年度		2015年度	2016年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)		
電力使用量原単位を削減	kwh/t	14.19	14.07	13.71	14.04	14.01		
化石燃料使用量原単位の削減	L/t	9.37	9.25	9.47	9.22	9.20		
再資源化の推進	%	92.2	92.5	94.25	92.5	92.5		
一般廃棄物の削減	t/年	2.75	2.69	2.40	2.69	2.66		
節 水	m ³ /年	309.0	304.5	356.0	304.5	303.0		
グリーン購入	点	10	10	10	10	10		

□環境活動の取り組み計画と評価

2014年4月～2015年3月までの目標とその実績について、その評価を行った。

取り組み計画	達成状況		単位 年度比	評 価 (結果と今後の方向)
	基準年度 目 標	14. 19 14. 07 実績 (13. 71)		
電力の削減 [本社] (生産量原単位の削減) ・加工設備の使用時、必要以上に 負荷をかけない ・未使用時の電源OFFの徹底 ・計画的な作業計画を立てる	基準年度 目 標	14. 19 14. 07 実績 (13. 71)	kwh/t 以下 (-0. 36)	目標達成 (○) 下半期から成果が徐々に 順調に活動できた
化石燃料使用量の削減 [本社] (生産量原単位の削減) (1) 軽油、重油： ・未使用時のエンジン停止 ・エンジン回転数の調節 (2) ガソリン： ・エコ運転の実施 (3) 灯油： ・適正な暖房温度 ・不在時の暖房停止 (4) ガス： ・つけっ放しの禁止	基準年度 年間目標 実 績	9. 37 9. 25 (9. 47)	L/t 以下 (+0. 22)	目標達成 (×) 上半期の数値が生産に繁栄 できず悪化。 下半期は復調の兆しが見ら れたが達成には至らなかった
再資源化の推進 [全社] (生産量に対する比率) ・再資源化出来る分別を徹底 ・再資源化不可の廃棄物を調査 ・有価物引取時の不純物排除の推進 ※活動は常時行っているが、数値 評価は1年間で実施する	基準年度 年間目標 実 績	92. 2 92. 5 (94. 25)	% % (+1. 75)	目標達成 (○) 順調な数値がみられた。 今後は産業廃棄物からの リサイクル促進に取り組む
一般廃棄物の削減 [本社] ・分別の徹底 ・水分を減らして廃棄	基準年度 年間目標 実 績	2, 750 2, 720 2, 400	kg kg kg	目標未達成 (○) ・削減を達成
上水道使用量削減 [本社] ・手洗い、トイレでの節水 ・食器、選択等のまとめ洗い ・工場消化用水は雨水溜水を利用	基準年度 年間目標 実 績	309 306 346	m ³ m ³ m ³	目標未達成 (×) ・生産過程工業用水 増加
グリーン購入 [全社] ・事務用品他10点購入	基準年度 年間目標 実 績	10 10 10	点 点 点	目標達成 (○)
総括 ・グリーン購入を今年度より目標に定め実施 ・化学物質の使用はない				

□次年度の取組内容（本年度）

取り組み計画	目標	主な取組の内容
電力の削減 (生産量原単位)	13.71kwh/t 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加工設備の使用時、必要以上に負荷をかけない ・ 未使用時の電源OFFの徹底 ・ 計画的な作業計画を立てる
化石燃料の削減 (生産量原単位)	9.47L/t 以下	<ul style="list-style-type: none"> □ガソリン <ul style="list-style-type: none"> ・ アイドリング・ストップの推進 ・ 効率の良いルート選択 □灯油 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な暖房温度 ・ 不在時の暖房停止 □重油 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未使用時のエンジン停止 ・ エンジン回転数の調節 □軽油 <ul style="list-style-type: none"> ・ 穏やかな発進と加速 ・ 効率の良いルート選択 □都市ガス <ul style="list-style-type: none"> ・ つけっ放しの禁止
再資源化の推進	56.6 % 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業廃棄物のリサイクル推進 ・ 再資源化できる物の分別の徹底 ・ 再資源化への可能性の調査、推進
一般廃棄物の削減	2,400 kg 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再資源化できる物の分別の徹底
上水道使用量の削減	346 m ³ 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い、トイレの節水 ・ 食器、洗濯のまとめ洗い ・ 工場消火用水は、雨水貯水を利用する
グリーン購入	10点 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務用品及び日用品のエコ商品購入

□環境関連法規等遵守状況の確認及び評価の結果

当社の法的適用を受ける環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬及び処分	遵守
フロン排出抑制法	第一種、第二種フロン類の回収	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の引取、解体、破砕	遵守
建設業法	建設業許可	遵守
消防法	少量危険物、指定可燃物の保管	遵守
家電リサイクル法	家電リサイクル品の取扱 (エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機)	遵守
振動規制法	せん断機、一軸破砕機	遵守
騒音規制法	せん断機、一軸破砕機	遵守

定期的に行っている環境関連法規制等の確認及び遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

□環境関連法規等遵守状況の違反、訴訟等の有無

関係当局よりの違反等の指摘及び、訴訟等は過去3年間ありません。

□代表者による全体評価と見直しの結果

〔代表者へ提供した情報〕

1) 環境に関する自己評価の結果

環境関連法規等は遵守されており、環境方針・環境目標に沿って適切に運用している。
教育・訓練をを通し、取組内容等の周知徹底の必要がある。

2) 環境目的・目標の進捗状況：未達成項目について、取組内容や計画が適切に実施されているかを会議等で話し合い、実施してきた。

取組内容を改めて検討し、次年度につなげていく。

3) 法的及び組織が同意するその他の要求事項の順守評価結果

定期的に行っている遵守状況の評価結果、環境関連法規等の逸脱はなかった。

〔代表者の評価及び見直し指示〕

昨年度よりHES環境マネジメントシステム（産廃規格）に変更し活動してきた。

環境に対する従業員の意識は向上していると考えられ、システムは有効に機能している。
未達成の項目についての検証や取り組みは評価できるが、数値の結果にとらわれすぎて本来の事業活動の目的が果たせられていないと感じる。自社の事業内容と事業の拡大を今一度見つめ直し、自分たちがやるべきことを把握した上で、目標の設定や活動計画をたて取り組む姿勢が大切であることから、今後に期待したいと考える。

以上